

加地伸行著「漢文法基礎 - 本当にわかる漢文入門 - 」

講談社学術文庫、講談社 2010年10月12日刊を読む

基礎とは何か - 基礎の意味 -

1. それでは、基礎とはなにか。二畳庵先生が考える基礎ということばは、基礎医学とか、基礎物理研究所といったことばで使われているような意味なんだ。いやいや、なにも難しいことじゃないんだ。こんなことわざを知っているか。「魚つりは、フナつりに始まってフナつりに終わる」。
2. 魚つりをする人は、最初は池あたりでフナつりから始めると言う。やさしいからである。そのうちに、もっと高度なつりを望み出す。川へ行く、季節を考える。海に行く、夜づりをする、といったグアイに、高度になってゆく。さてしかし、そういうバラエティに富んだ経験を経たのち、またフナつりにもどると言う。しかし、このときのフナつりは、決して魚つりを始めたころのフナつり技術ではない。さまざまな経験を経た上のフナつりだ。この境地が楽しいと言う。もっと言えば、もう釣竿なんかいらぬ。それは言いすぎか。ただし、釣竿はあっても、釣糸はなし。ただ釣竿だけを池の水面上に向けて差し出す。そして、無念無想、なにも考えずにじっとして、心の中で、魚が餌に食いついたと感じると、さっと釣竿を引く。こういう名人の境地に最後はなるんだなあ。ホント。
3. 私の言おうとする基礎とは、あれこれ経験を経たのちの最後の段階のフナつりに当たる。初歩的知識というのは、魚つりを始めるころのフナつりを指している。最後の境地のフナつりは、形こそフナつりで同じだが、その内容は、まったく異なるのだ。基礎というのは、初歩的知識に対して、いったいそれはいかなる意味を持っているのか、ということ。つまりその本質を反省することなのである。初歩的知識を確認したり、初歩的知識を覚える、といったことではなく、その初歩的知識を材料にして、そのもっている本質を根本的に反省するということなのだ。
4. I am a boy. という文ひとつを見ても、その文の構造を徹底的に反省し、その第二文型というものの持っている意味を根本的に反省するということが、これが基礎の勉強なのである。それは、英語の学習を中学校以来、さまざまに学んできた経験を有する受験生諸君にして初めてできることなのだ。abcを習いたての中学一年坊主は、トテモそんな芸当はできない。I am a boy. という文を覚えるだけで精一杯だ。つまり、初歩的知識の吸収で精一杯なんだ。「魚つりは、フナつりに始まってフナつりに終わる」。これが初歩と基礎との違いであり、この基礎を養うところに意

味があるのだ。この本がねらっているのは、そういう意味の「基礎」なのである。だから、諸君が漢文の初歩をすでに知っているということを前提として話を進めたい。

P34 ~ 35

[コメント]

小西甚一先生の「古文の読解」と並んで大お勧めの漢文の本格的な参考書が本書かも知れない。有難い限りだ。よく出版してくれた。

- 2010年11月13日 林 明夫記 -